

保健医療福祉計画シリーズ 1

高齢化社会到来

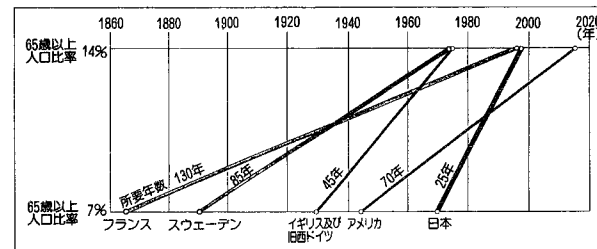
我が国は、いまや平均寿命八十年という世界最長寿命国になり、二十一世紀には、国民の約四人に一人がお年寄りという超高齢社会に到達しようとしています。

現在、欧米諸国の老年人口比率（高齢化率）は、スウェーデン十八・一％、イギリス十五・四％、旧西ドイツ十四・九％、アメリカ十二・六％となっており、我が国よりも高齢化が進んでいますが、我が国の高齢化の進行は急速であり、世界に例をみない速さで進んでいます。例えば、老年人口比率が七％から十四％に達するまでの所要年数はわずか二十五年と見込まれています。（図1、2）

本町においても、高齢化の波が全国平均よりも早く推移し、今後急速に進むことが考えられます。（表1）

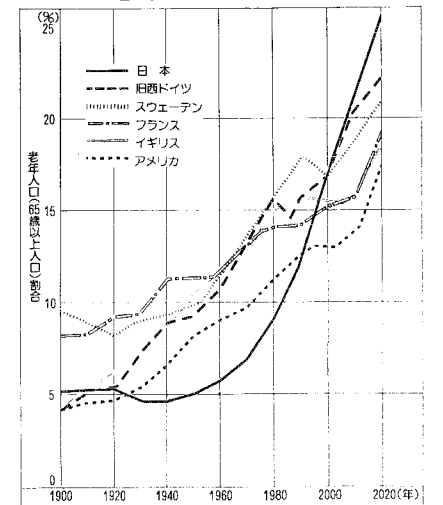


図2 人口高齢化速度の国際比較

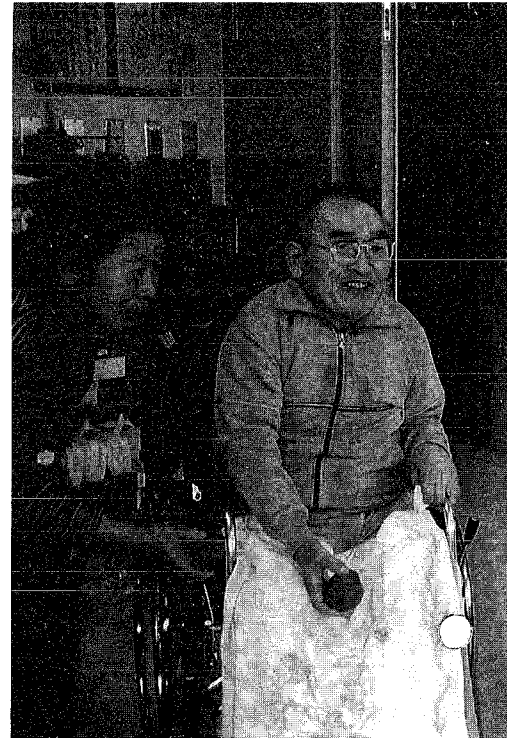


(資料) 厚生省人口問題研究所「人口統計資料集(1986)、U.N.「世界人口年鑑」1984年及び国連世界人口推計人口

図1 欧米先進諸国と日本の老年人口割合



資料) 日本は総務庁統計局「国勢調査」及び厚生省人口問題研究所「日本の将来人口推計(平成3年6月暫定推計)」、外国は国連資料(IN「Population Studies」及び「World Population Prospects: 1990」)に基づき。



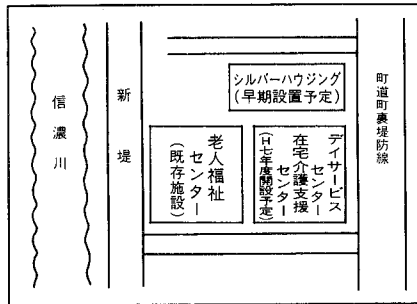
デイサービスセンター(新津市・かんばらの里)でレクリエーションを楽しむ利用者の皆さん。
平成7年度からは、小須戸町にも「デイサービスセンター」が開設します。

地域福祉の推進

高齢者や障害者の多くは、できるだけ住み慣れた地域で暮らしていくことを望んでおり、これを支援する在宅福祉サービスの充実が急務となっております。このため、多様化する福祉ニーズに迅速に対応できる体制と、住民が気軽に選択・利用できる地域に密着したニーズ即応型のサービス提供体制を確立する必要があります。本計画では、住民に要望の多い「在宅福祉の推進」に重点を置き、高齢者や障害者をはじめ全ての住民が生きがいを持ち、家族や介護者の精神的、肉体的負担を軽減することを目的とした福祉施策を展開します。小須戸町では次の四項目に重点を置きます。

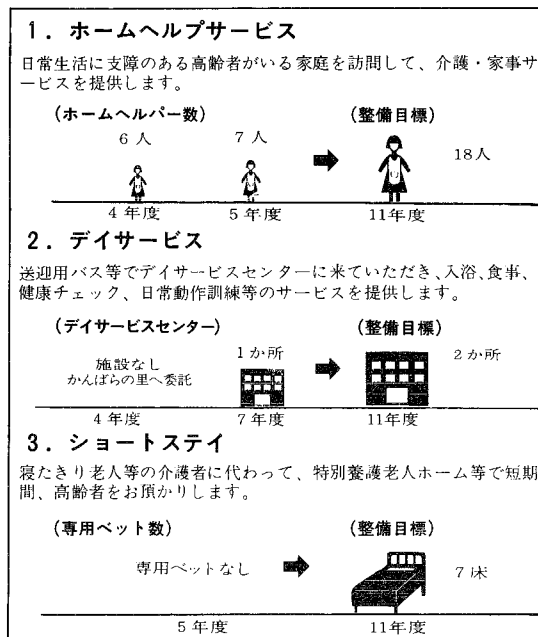
① 在宅福祉の拠点整備
既存の老人福祉センターを中心とした区域を「福祉ゾーン」とし、在宅介護支援センターを併設したデイサービスセンターを平成七年度に開設します。さらに、同センターと一体的な施設として、高齢者向け町営住宅(シルバーハウジング)を早期に設置します。(図3)

図3 大川前地区福祉ゾーン構想



- ② 在宅福祉の促進
在宅福祉サービスの三本柱、(ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイ)を充実するために、人材確保と啓発活動を進めます。(図4)
- ③ 住民参加
従来の行政主導から住民主導の福祉を目指すため、住民の地

図4 在宅福祉サービス3本柱の整備目標



暮らしていける社会環境の整備を進めます。

④ 生きがいづくり
高齢者や障害者をはじめ全ての住民が気軽に参加できる生涯学習活動の充実と、老人クラブ活動の活性化等により、住み慣れた地域で家族や友人たちとともに、地域社会の中で人間的なふれあい、生きがいを持つて

